

# 文化・コンベンション施設基本設計業務 基本設計報告書（概要）

## I 設計基本方針

1 施設の立地条件と現状	.....	2
2 施設の基本特性	.....	3
3 基本設計の方針	.....	3
4 施設の構成・規模	.....	4
5 施設の管理運営	.....	4
6 スケジュール	.....	4

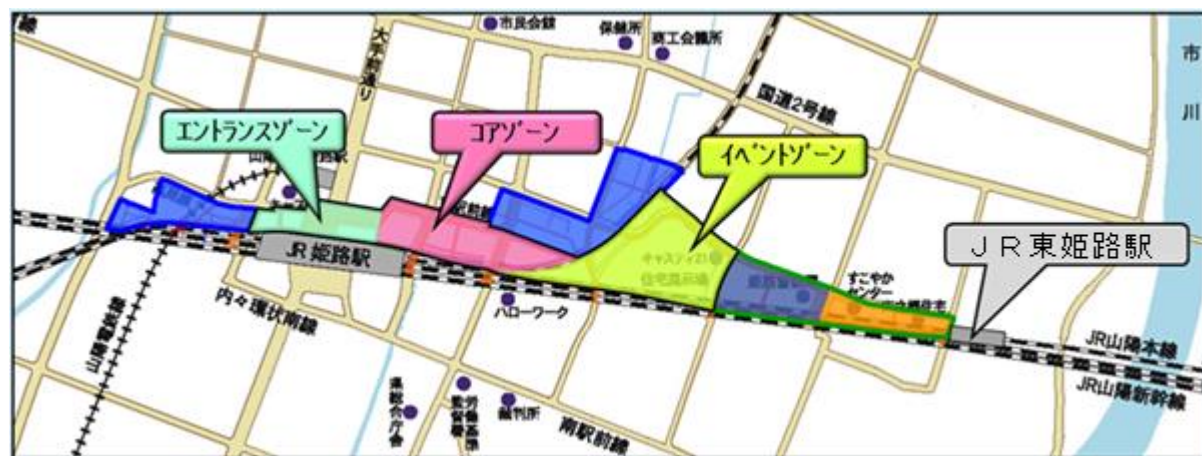
## 1 施設の立地条件と現状

- ・ イベントゾーンは、「交流と創造のうらおいひろば」の位置づけのもと、整備コンセプトを「知と文化・産業の交流拠点」と定め、文化・コンベンションエリアに文化・交流施設とコンベンション・展示施設を整備することとしている。
- ・ この施設は、本市の文化芸術の振興と MICE の推進施策を効果的に進めていくための拠点施設として、十分に活用することで、都市としての魅力を内外に発信し、都市の発展に寄与することが期待されている。
- ・ また、施設の立地条件は、駅からの利便性が高く、中心市街地の賑わいに大きな役割を果たすことが期待されるとともに、観光による経済効果だけでなく情報やモノが行き交うことによる都市成長への効果が大きいものと考えられる。
- ・ 新しい施設には、現姫路市文化センターの役割を引き継ぎ、更なる人材育成や基盤づくりを進めていくことが求められるとともに、都市戦略として、MICE 誘致を進めていくため、一定規模の催事が開催できることが求められている。

＜文化・コンベンションエリアの概要＞

位置	J R 姫路駅の東約 700m (西端)
面積	約 3.6 ha
用途地域	近隣商業地域
容積率/建ぺい率	300%/80%
周囲	都市計画道路十二所前線(幅員 20m)、下寺町線(幅員 16m)や区画道路(幅員 10m)が配置され、南側には J R 山陽本線・ J R 山陽新幹線、北西側には J R 播但線・外堀川が位置

＜キャストィ 21 区域＞



＜現況（航空写真）＞



＜姫路市内の展示機能、会議室機能を有する施設＞

施設名	主要室名	仕様	備考
姫路みなとドーム	アリーナ	2,675 m <sup>2</sup>	※展示場としても使用可
イーグレひめじ	あいめっせホール	474 m <sup>2</sup> 定員 280 人	※平面使用可
市民会館	大ホール	定員 800 人	
	展示室	190 m <sup>2</sup>	
	会議室	計 12 室	※他に和室等あり
文化センター	大ホール	定員 1,657 人	
	小ホール	定員 493 人	
	展示室	500 m <sup>2</sup>	
	会議室	計 3 室	
姫路商工会議所	大ホール	463 m <sup>2</sup> 定員 500 人	※平面仕様
	展示室	377 m <sup>2</sup>	
	会議室	計 17 室	※新館含む。他に和室等あり

## 2 施設の基本特性

「文化・交流施設」及び「コンベンション・展示施設」の両施設は、一体的な整備及び管理を行うことで、複合施設としてのメリットを最大限に活かした施設とするとともに、さまざまな催しの誘致・開催を可能にし、広域的な集客や賑わいの創出、観光交流の推進に資する施設とする。

### ○ 文化・交流施設

- 文化芸術の創造・発信拠点として、より多くの市民が文化芸術を享受し交流できる「場」として、既存施設の役割を継承しながら、文化芸術を通じた交流機会の創出、市民の創造的活動の支援、文化芸術の担い手育成、文化情報の収集・発信といった新たな役割を加えた播磨の連携中枢都市にふさわしい、文化芸術の拠点施設とし、利用目的に応じた規模・機能を有する3つのホールとリハーサル室、練習施設からなる総合的な文化施設とする。

### ○ コンベンション・展示施設

- コンベンション・展示施設は、交流と観光をセットにした都市・地域成長戦略として、MICE 推進による地域の国際化、活性化を図るまちづくりに対応するとともに、播磨の連携中枢都市として、「ものづくり力の強化」、「地域ブランドの育成」、「交流人口の増加」を推進する本市の MICE 受け入れの拠点施設であり、特に、民間企業や地域の大学等を主体とした展示会や商談会、個人消費者を対象としたイベント等の需要が見込まれることから、本市の都市成長に寄与する新たなビジネスを生み出す都市装置としての役割を担う施設とする。

### ○ 文化・交流施設とコンベンション・展示施設の併設のメリット

- 他都市では、ホールと会議室、展示場が併設している施設は希少であることから、他施設に対し優位性を持つことが特長といえる。
- また、展示場においては、一定の防音機能を施すことにより、ホールでは収容しきれない大規模な文化行事、コンサート等の活用が可能である。

## 3 基本設計の方針

### ○ 利用者・使用者の利便性・快適性

- 文化・交流施設及びコンベンション・展示施設に共通する点として、市民や文化団体、催事主催者など、主な利用者が民間であることが挙げられる。
- そのため、日々移り変わる多種多様なニーズに対応することが出来るよう、利便性及び快適性を備えておくことで、多くの利用者・使用者に長く愛され、利用される施設になると考えられる。

### ○ 複合施設としての効率的な運営

- 今日、各自治体においては、特に公共施設に要する管理コストを可能な限り削減することが求められている。
- そのため、2つの機能が併設する複合施設であるという本市ならではの特徴を活かすことで、これらの施設を効率的に管理運営することが出来ると考えられる。

### ○ 周辺との一体整備

- 文化・コンベンションエリアを含むイベントゾーンは、「姫路市都心部まちづくり構想」及び「キャストィ 21 整備プログラム」に基づき、エントランスゾーン及びコアゾーンから続く一連の開発の流れの中で整備が進められている。
- そのため、文化・コンベンションエリアのみならず、姫路駅を中心とするエントランスゾーンから、1号・2号公園等の周辺施設と一体的な整備を行うことで、文化・コンベンションエリア周辺での整備効果をより高め、ひいては都心部の回遊性の向上、中心市街地のより一層の活性化に資することが出来ると考えられる。

### ○ 防災・災害機能の確保

- 文化・コンベンションエリア基本計画では、文化・交流施設に「避難所機能」「帰宅困難者受け入れ機能」等、コンベンション・展示施設に「災害用応援物資集積拠点機能」等の防災・災害機能の導入について検討することとしている。
- そのため、災害に強いインフラを活用した電力システムの構築や、1号公園と連携したJR姫路駅からの帰宅困難者の施設への誘導、展示場に整備予定である重量車両の乗り入れ可能な広大な平土間空間を活用した災害用応援物資の集積など、施設の特性を最大限活用した防災・災害機能の検討を行う。

#### 4 施設の構成・規模

主な施設		規模	機能など
文化・交流施設	大ホール	2,000 席	オーケストラやオペラ等に対応可能な音楽重視型ホールとするが、ポピュラーコンサートや講演会等にも対応 (西日本の主要都市レベルの規模)
	中ホール	800 席	演劇を主目的とした演劇重視型ホールとするが、講演会等にも対応
	小ホール	150 席	市民による小規模なコンサート、講演会等に対応可能な多目的型ホール
	音楽演劇練習場	大 1 室、中 1 室 小 5 室	演劇やダンスのほか、太鼓や軽音楽の練習など、市民の芸術活動を幅広く支援
展示施設 ・ コンベンション	展示場	5,000 m <sup>2</sup> (3 分割可能)	様々な種類・規模の催事に対応可能な、分割利用可能な平土間型多目的展示場(瀬戸内圏で最大規模)
	会議室	大 3 室 (一体利用可能) 中 5 室、小 2 室	全体会・分科会やバンケット、ポスターセッション等幅広い用途に対応可能な、1,000 人以上の会議等を開催可能な会議施設
	駐車場	400 台	安全性、経済性等に優れるフラット式立体駐車場

#### 5 施設の管理運営

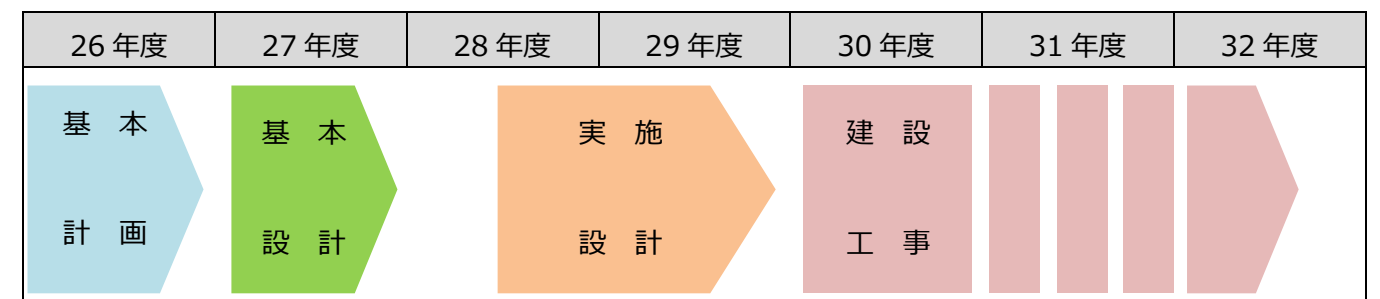
##### ○ 管理運営の方向性

- 施設利用者や来館者の受付窓口の一本化(ワンストップサービス)による利便性の向上、各施設の相互利用による管理経費の削減など、複合施設としての一体的な運用と管理運営の効率化を図るため、施設全体の一体管理を目指す。

##### ○ 管理運営手法

- 管理手法としては、指定管理者制度の導入を視野に、施設の管理運営のノウハウを持った事業者の公募、利用料金制の導入等を検討する。
- 業務内容は、施設設備の維持管理や使用許可、使用料の徴収等のほか、施設管理者主催による自主事業や(公財)姫路市文化国際交流財団との共催による文化行事の実施、(公社)姫路観光コンベンションビューローと連携したMICE誘致を行うなど、文化・コンベンションエリアの賑わい創出に効果的な施設運営に資する様々な戦略的取組みの実践を含めた内容とする。

#### 6 スケジュール



## Ⅱ 建築計画

1	計画概要	.....	6
2	配置計画	.....	7
3	平面計画	.....	8
4	断面計画	.....	11
5	外構計画	.....	13
6	環境配慮計画	.....	14
7	防災計画	.....	14
8	デザインコンセプト	.....	14

## 1 計画概要

### ○ 敷地概要

建設地	姫路市神屋町地内外
住居表示	未定
都市計画区域	市街化区域
防火地域	準防火地域
その他の区域	姫路駅周辺土地区画整理事業区域 キャスティ 21 地区計画区域 姫路市中心市街地活性化計画区域 姫路駅周辺地区（第 2 期）都市再生整備計画区域 以下指定なし : 高度地区、特別用途地区、臨港地区、高度利用地区 道路・都市高速鉄道、公園緑地、その他都市施設 市街地再開発事業、市街地改造事業
道路種別	都市計画道路 北側 十二所前線 幅員 20m、 西側 下町寺線 幅員 16m 区画道路
敷地面積	約 3.6ha
用途地域	近隣商業地域
容積率	300%
建ぺい率	80%
道路斜線	勾配 1.5 適用距離 25m
隣地斜線	勾配 2.5 立ち上り 31m
北側斜線	規制なし
日影規制	規制なし (近隣商業地域/容積率 300%)
必要駐車台数	400 台 (I 設計基本方針による (姫路市駐車施設附置条例では 237 台))

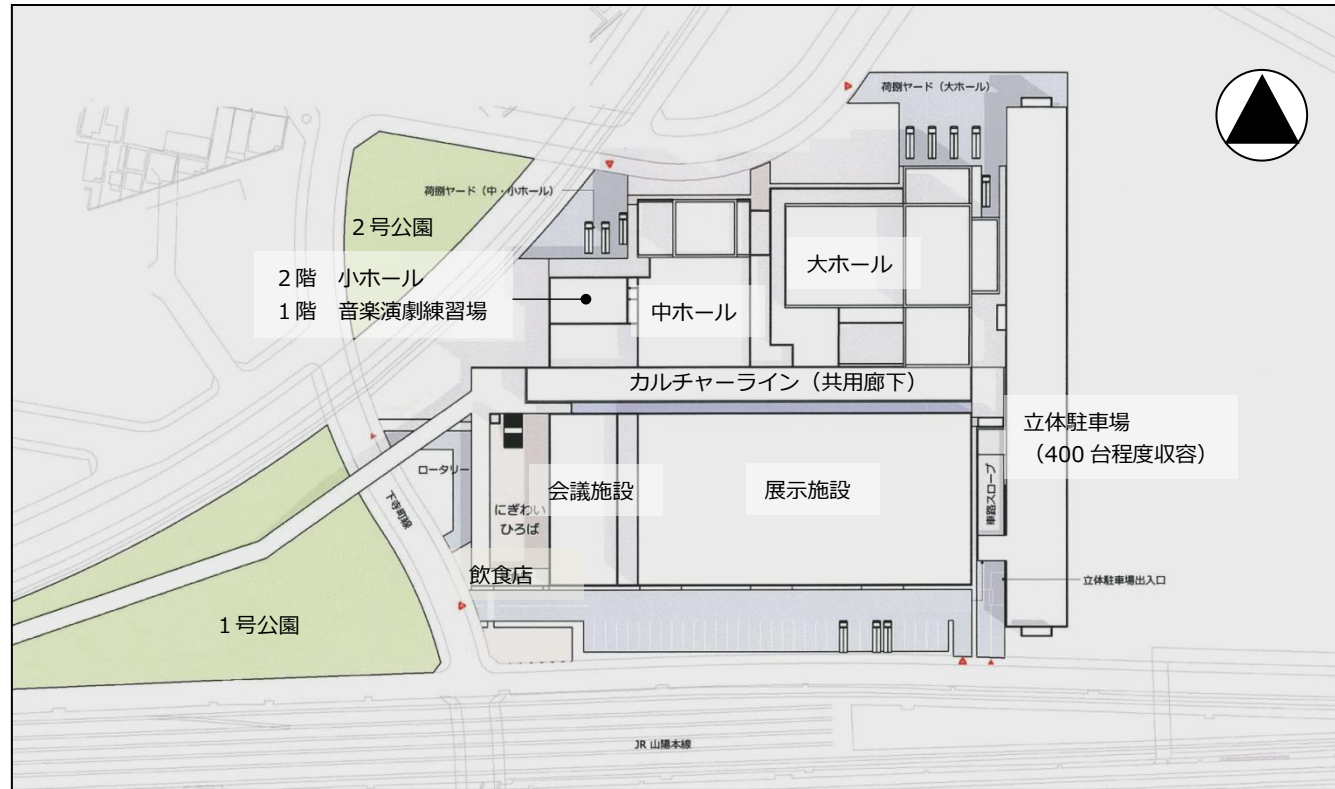
### ○ 計画概要

施設名称	文化・コンベンション施設			駐車場	
	文化・交流施設	コンベンション ・展示施設	小計		
建築物の数	2 棟				
規模	地上 6 階+地下 1 階	地上 3 階建		地上 3 階+搭屋	
構造	鉄筋コンクリート造+鉄骨造			鉄骨造	
建物高さ	37.3m	22.5m		10.7m	
建築面積	6,681.51 m <sup>2</sup>	9,584.22 m <sup>2</sup>	16,265.73 m <sup>2</sup>	3,732.13 m <sup>2</sup>	
合計				19,997.86 m <sup>2</sup>	
建ぺい率				54.97%	
各階面積	B1FL	3,369.71 m <sup>2</sup>	0.00 m <sup>2</sup>	3,369.37 m <sup>2</sup>	0,00 m <sup>2</sup>
	1FL	6,679.31 m <sup>2</sup>	9,584.22 m <sup>2</sup>	16,263.53 m <sup>2</sup>	3,732.13 m <sup>2</sup>
	2FL	6,534.25 m <sup>2</sup>	2,151.70 m <sup>2</sup>	8,685.95 m <sup>2</sup>	3,732.13 m <sup>2</sup>
	3FL	2,592.62 m <sup>2</sup>	1,135.51 m <sup>2</sup>	3,728.13 m <sup>2</sup>	3,732.13 m <sup>2</sup>
	4FL	1,884.30 m <sup>2</sup>	0.00 m <sup>2</sup>	1,884.30 m <sup>2</sup>	0.00 m <sup>2</sup>
	5FL	1,446.79 m <sup>2</sup>	0,00 m <sup>2</sup>	1,446.79 m <sup>2</sup>	0,00 m <sup>2</sup>
	6FL	148.50 m <sup>2</sup>	0,00 m <sup>2</sup>	148.50 m <sup>2</sup>	0,00 m <sup>2</sup>
	小計	22,655.14 m <sup>2</sup>	12,871.44 m <sup>2</sup>	35,526.58 m <sup>2</sup>	11,196.39 m <sup>2</sup>
延べ面積				46,722.97 m <sup>2</sup>	
容積対象延べ面積				37,378.37 m <sup>2</sup>	
容積率				102.74%	
駐車台数	-	-	-	408 台	

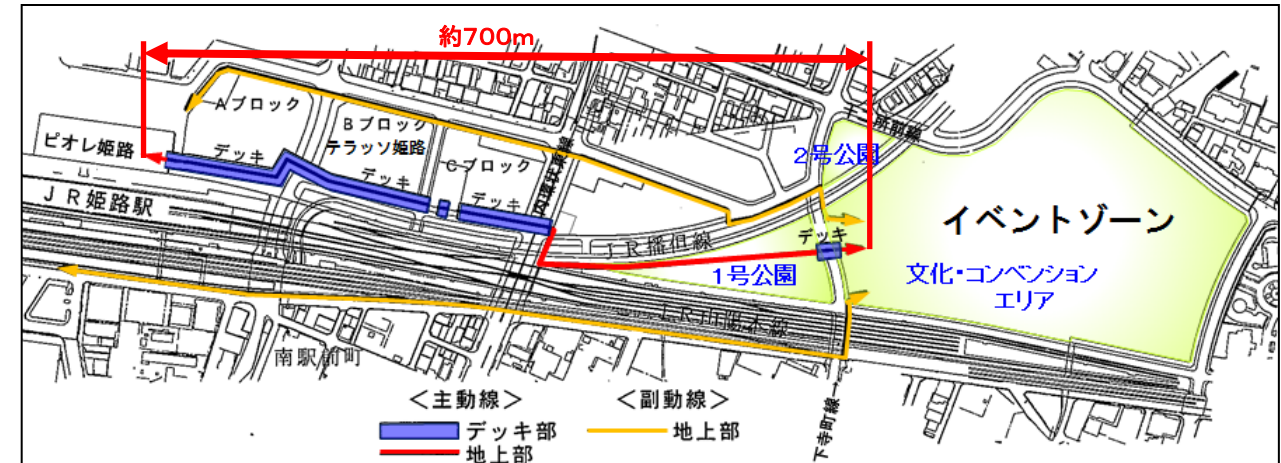
## 2 配置計画

- ・ コアゾーンのデッキとともに、1号公園を有効活用した歩行者動線を整備
- ・ J R姫路駅から、歩行者が最短距離で到達できる西側にエントランスを配置
- ・ 新幹線等からの騒音や振動に配慮し、北側に文化・交流施設、南側にコンベンション・展示施設を配置

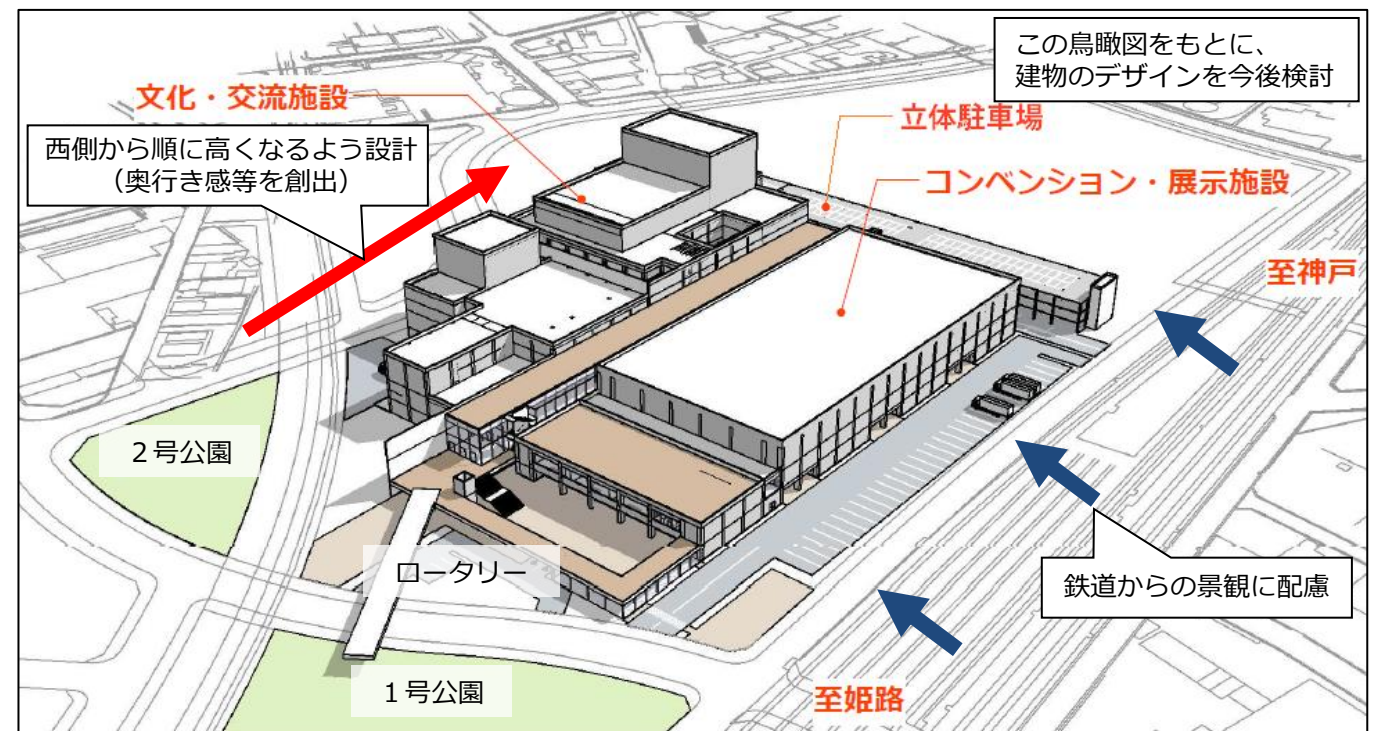
<配置図>



<姫路駅からの歩行者動線>



<鳥瞰図>

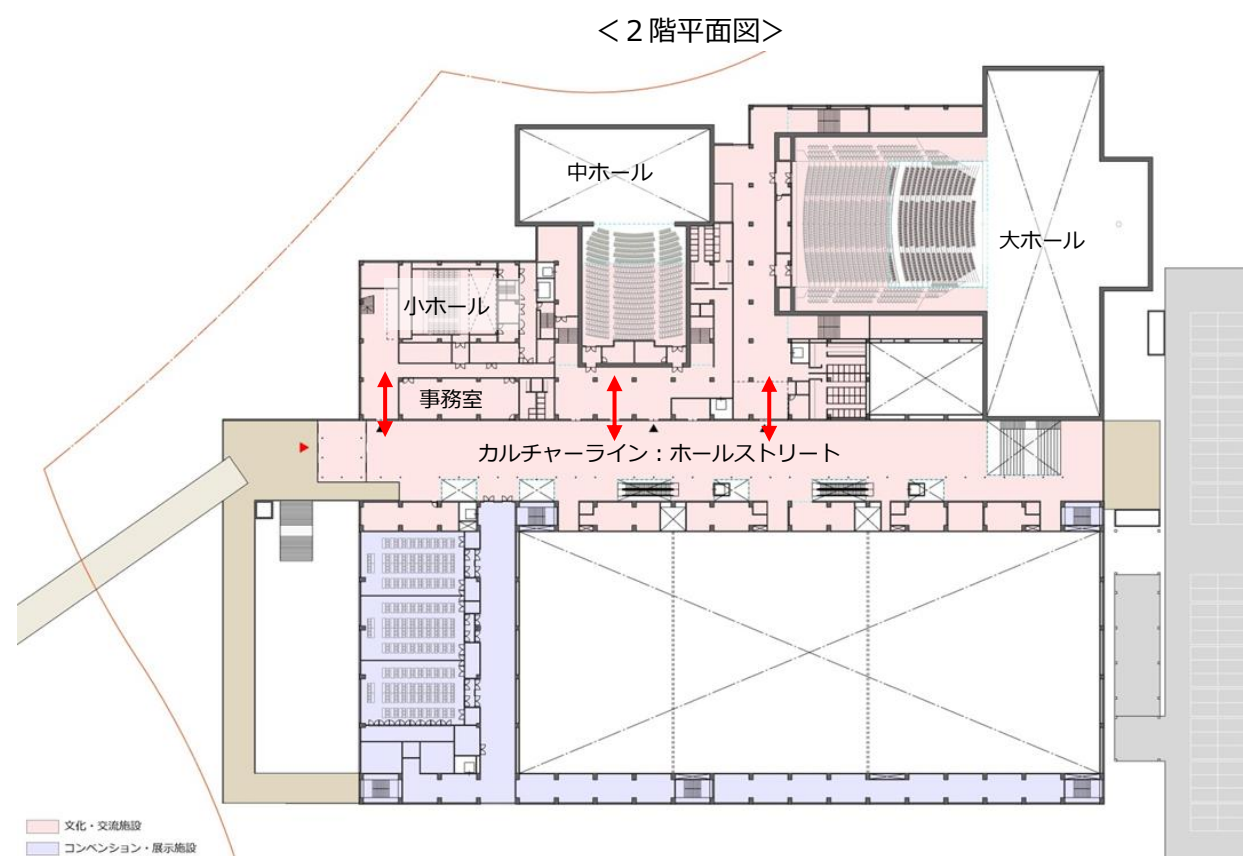
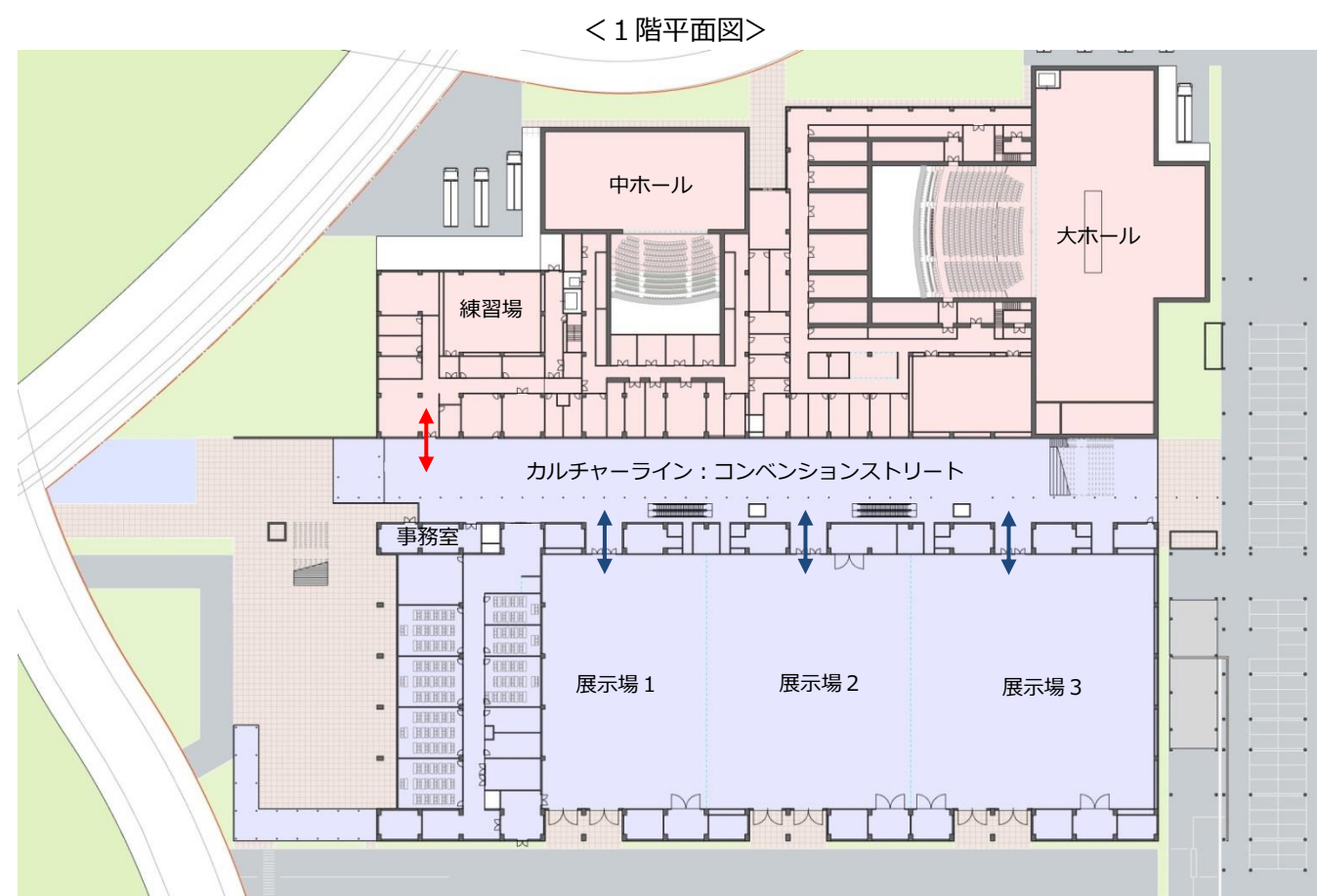




### 3 平面計画

#### ○ 平面計画の考え方

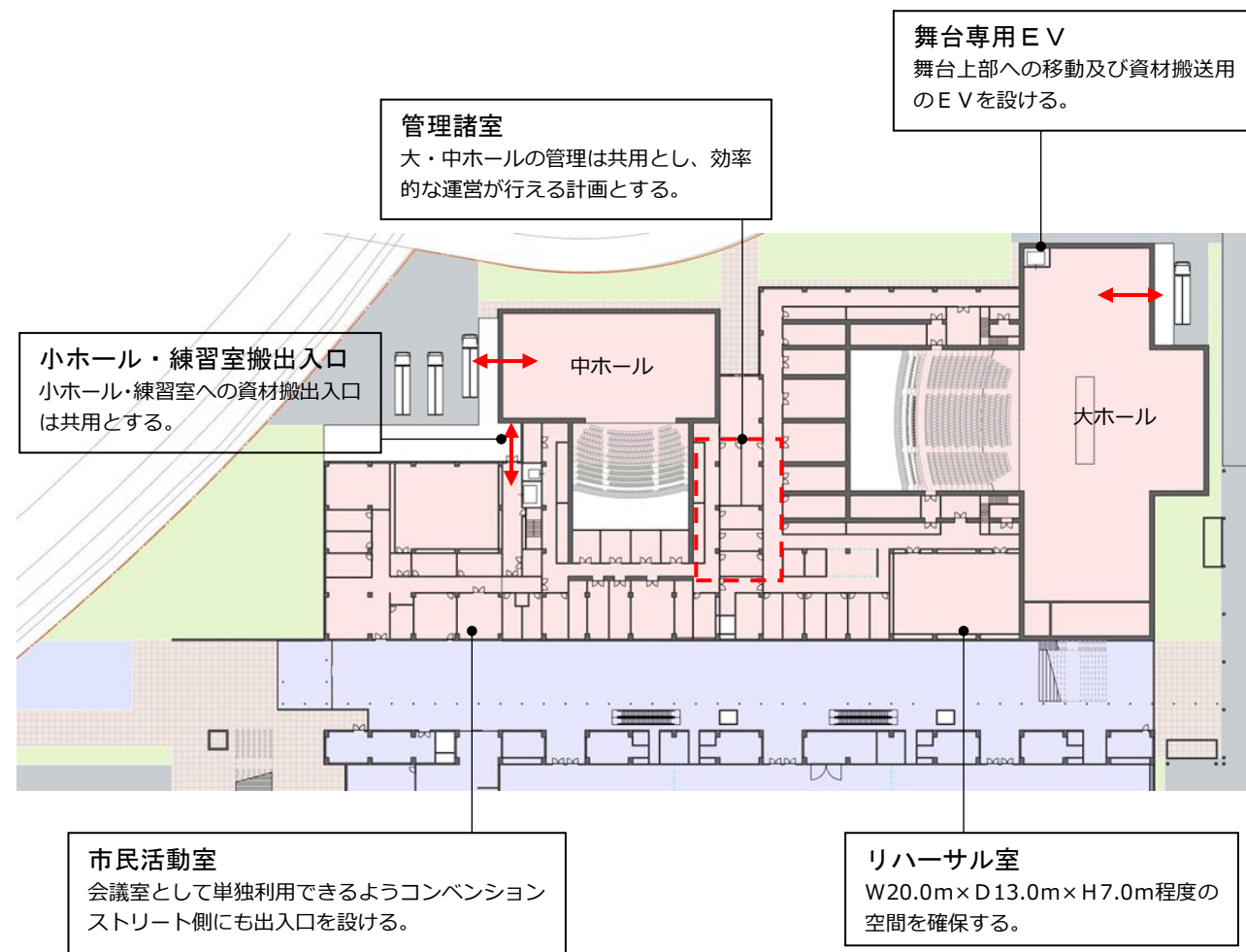
- ・ カルチャーライン（1階：コンベンションストリート、2階：ホールストリート）を中心とした、明快で分かりやすく使いやすい平面計画
- ・ カルチャーラインの幅員に余裕を持たせ（約 15m）、待合スペース等に利用できるような、大勢の人が滞在できるゆとりある共用空間
- ・ カルチャーラインにエレベーター、エスカレーターを効率的に配置し、横断的な施設利用ができる平面計画
- ・ 市民利用の頻度が高い小ホール、音楽演劇練習場、会議室及びそれに付随する事務室をエントランスに近い西側に配置した、管理しやすい平面計画



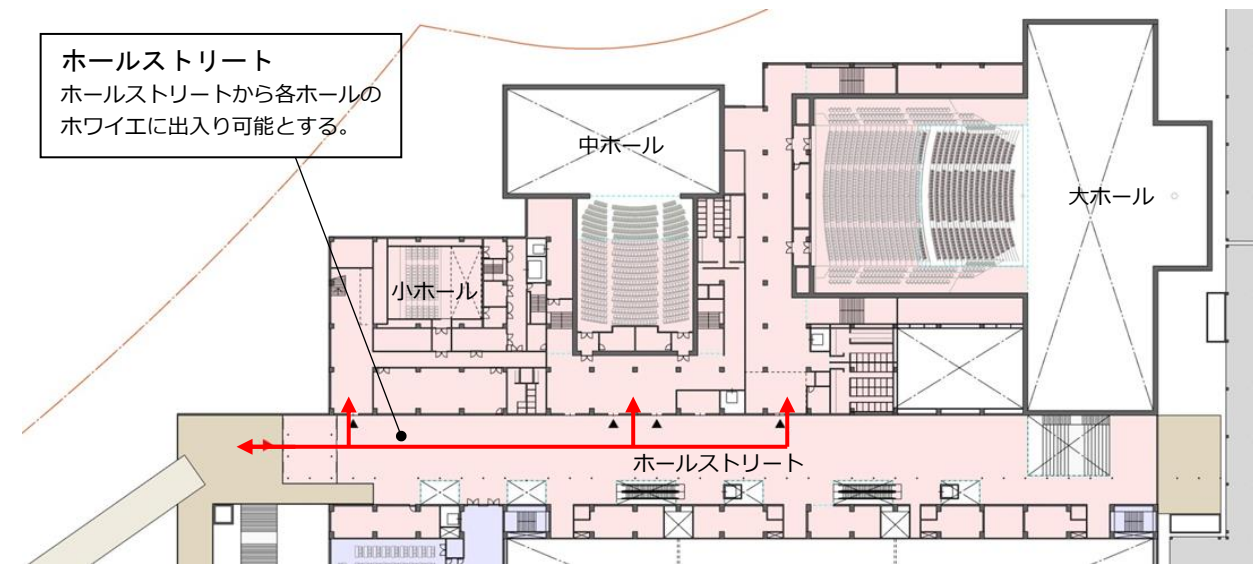
○ 文化・交流施設

- ・ 市民利用の頻度が高い小ホール、音楽演劇練習場をエントランスに近い西側に配置するとともに、大ホールと中ホールの楽屋エリアを隣接させ外部からの出入口を集約させたゾーニング計画
- ・ 楽屋と練習室・リハーサル室等を同一階に配置し、大・中ホールの楽屋の一体利用も可能な舞台スタッフ動線
- ・ 大・中ホールそれぞれに搬入ヤードを設けるとともに、大ホール舞台袖に搬送用専用E Vを設置した搬出入動線
- ・ ホールストリートから大・中・小ホールのホワイエに出入りできる観客動線

< 1階平面図 >



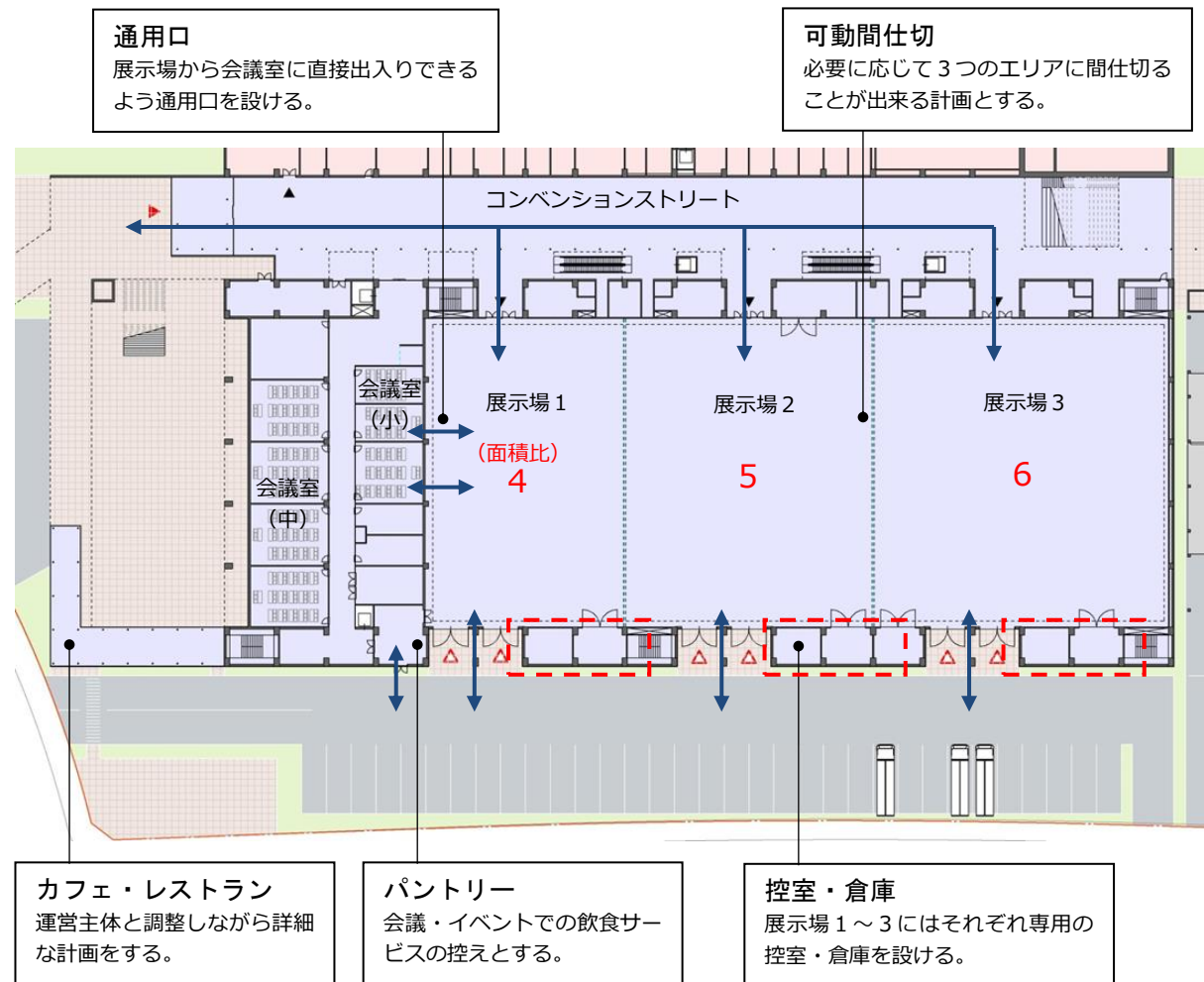
< 2階平面図 >



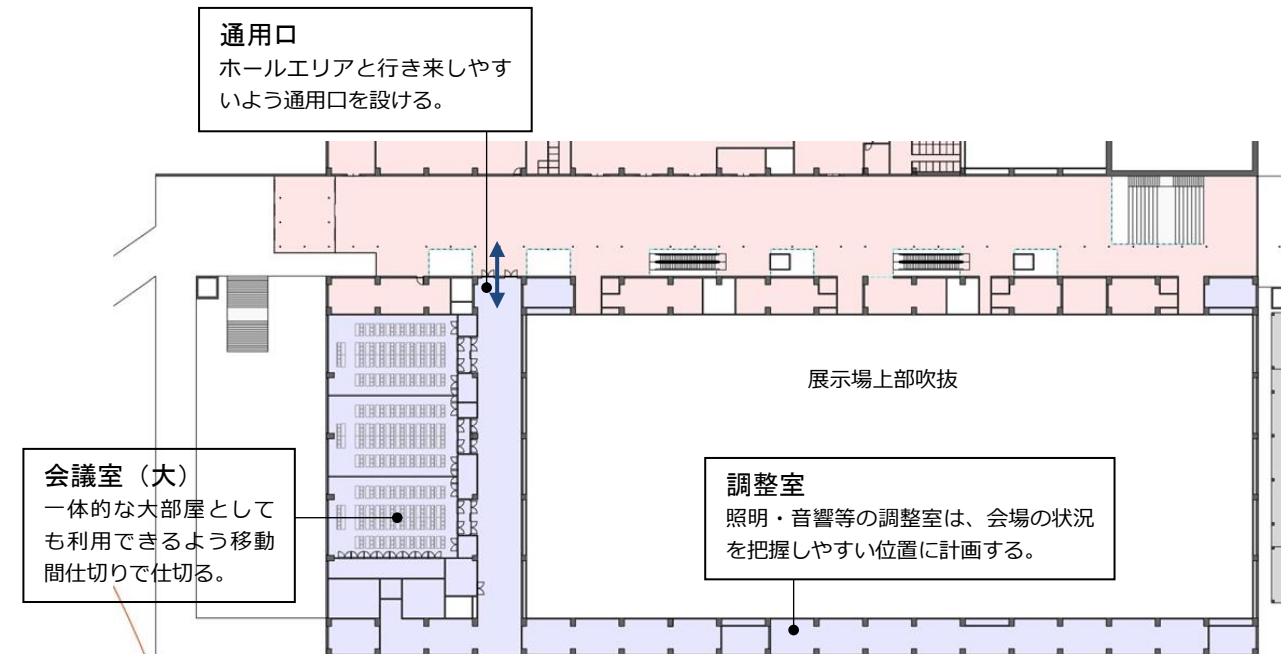
○ コンベンション・展示施設

- ・ 市民利用の頻度が高い会議室をエントランスに近い西側に配置するとともに、会議室と展示場の一体利用や展示場の分割利用（4：5：6の3分割）も可能なゾーニング計画
- ・ 1階搬出入口に控室、2階に照明・音響等の調整室を設けたスタッフ動線
- ・ 南側に搬出入用駐車場を設けた搬出入動線
- ・ コンベンションストリートから会議室・展示場に入出りできる観客動線

<1階平面図>

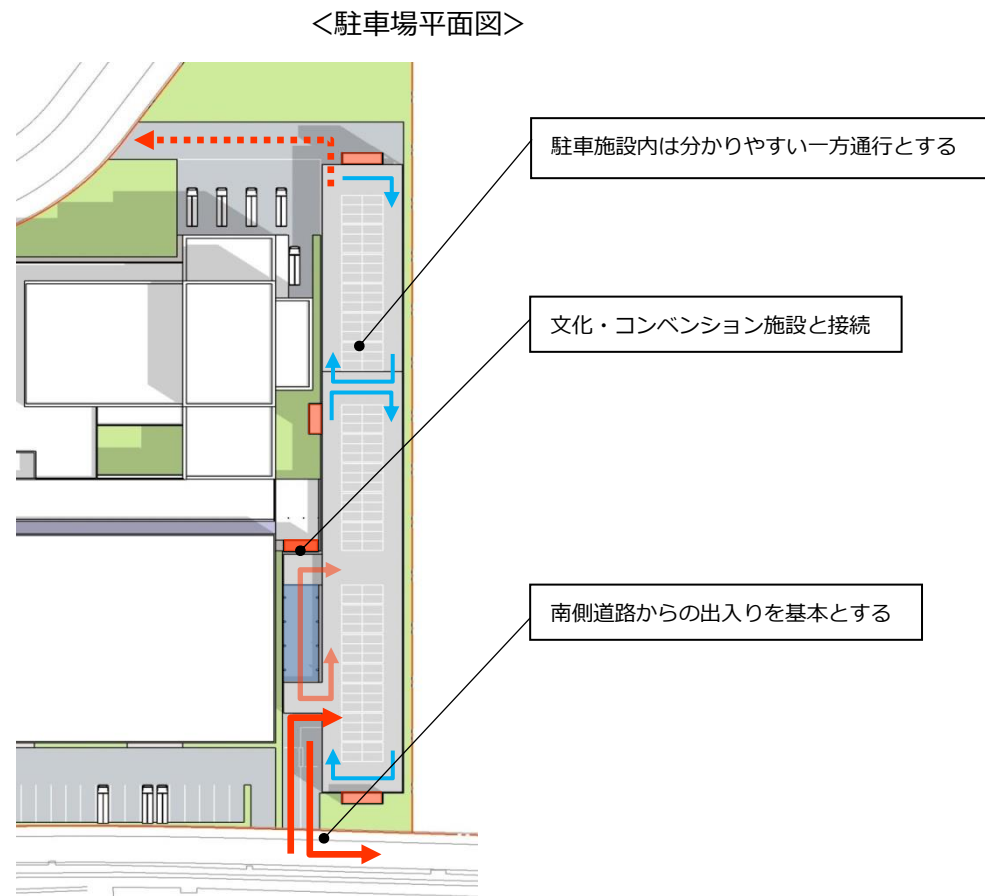


<2階平面図>



○ 立体駐車場

- ・ 計画敷地内に効率的に集約するため、南北に長い形状とし、動線のほぼ中央にあたる箇所にて文化・コンベンション施設と接続可能

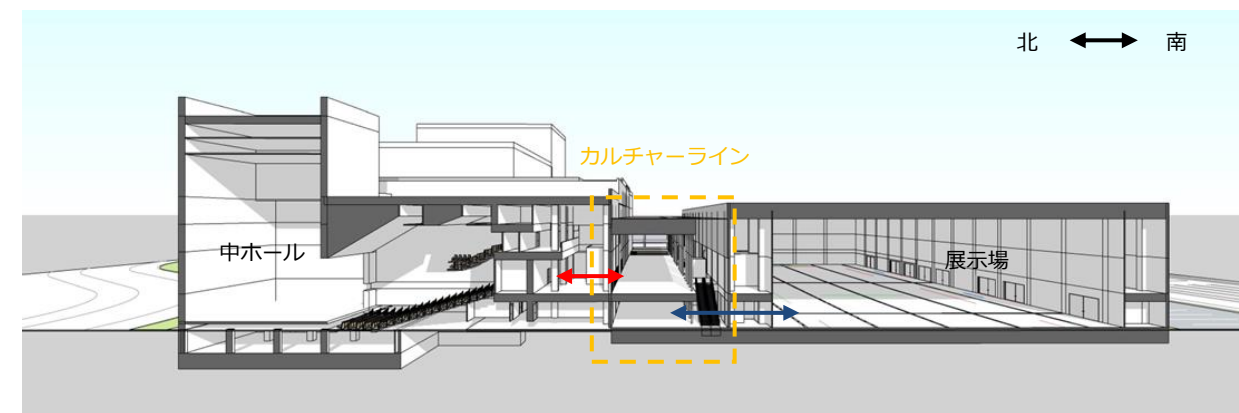


4 断面計画

○ 断面計画の考え方

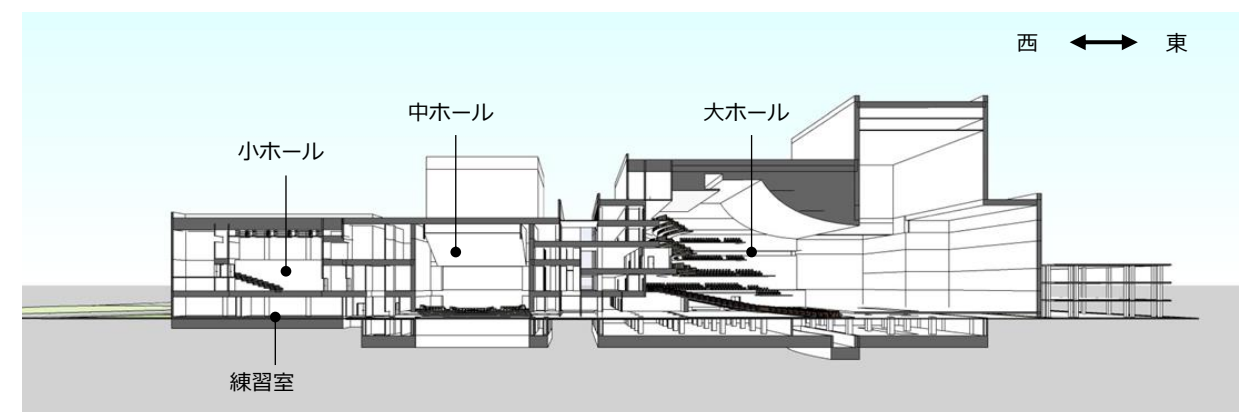
- ・ 両施設の来場者が重なり、安全性を損なうことがないように、両施設のエントランス及びカルチャーラインを階ごとに明確に区分した、明快で安全に配慮した断面計画
- ・ 階ごとに利用者を明確に区分することで、階ごとに空調を行うことによる負荷軽減等が出来る、管理しやすい断面計画

<断面イメージ>



- ・ 躯体、仕上共に無駄のない、適切な階高設定

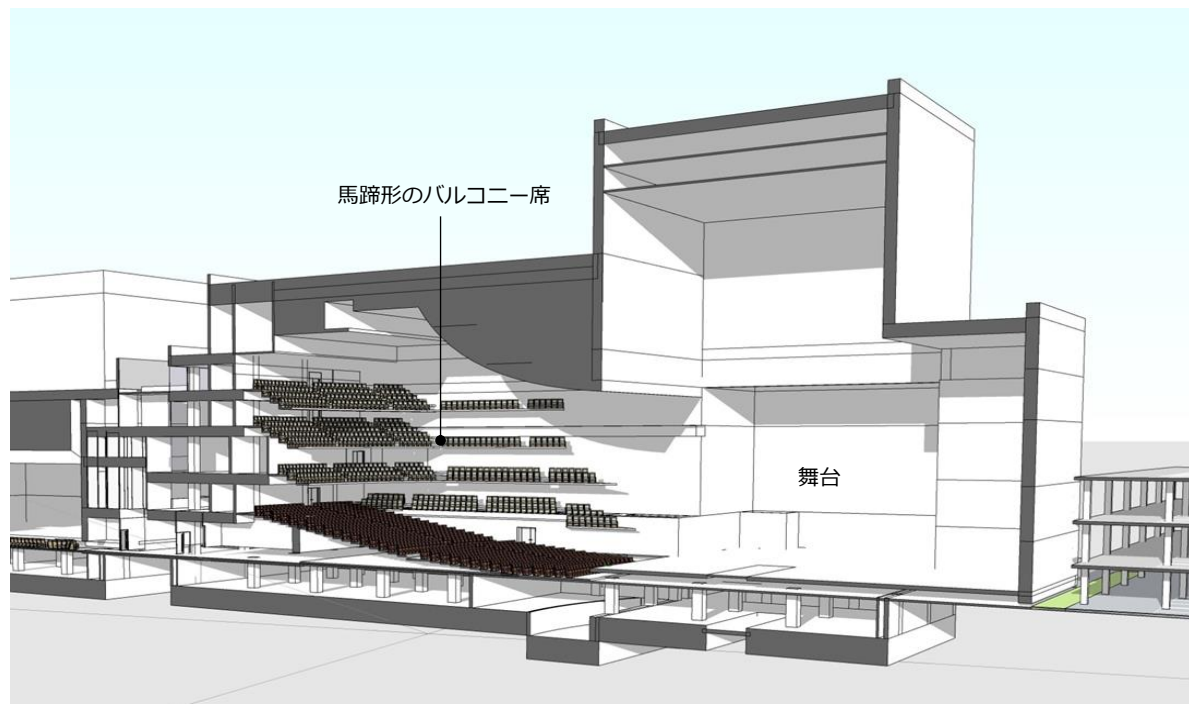
<文化・交流施設 断面イメージ>



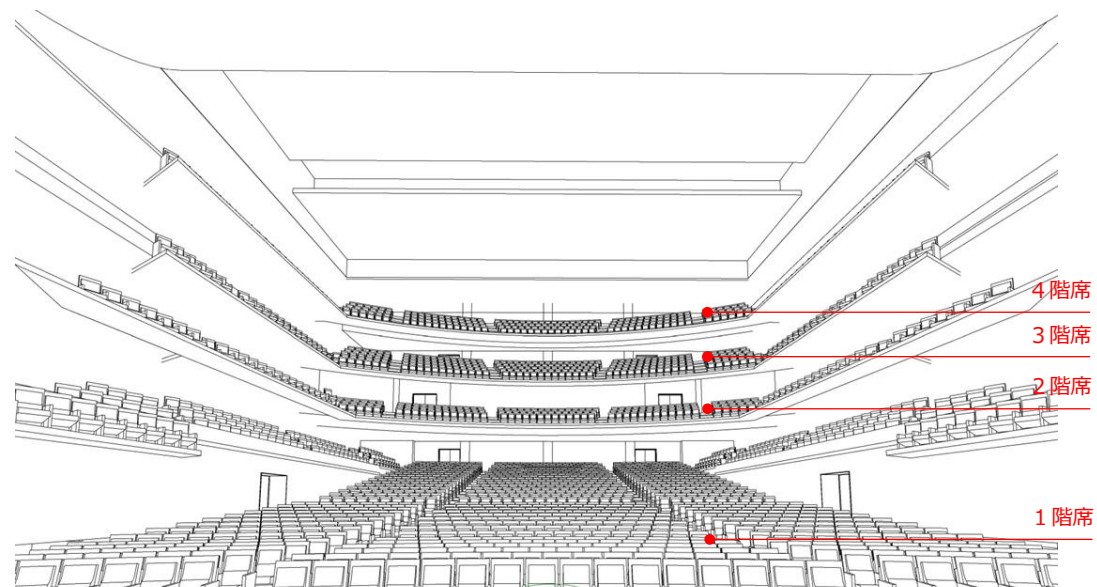
○ 文化・交流施設

- ・ 観客同士の一体感が感じられる客席構成
- ・ 客席からの視覚に配慮したレベル設定

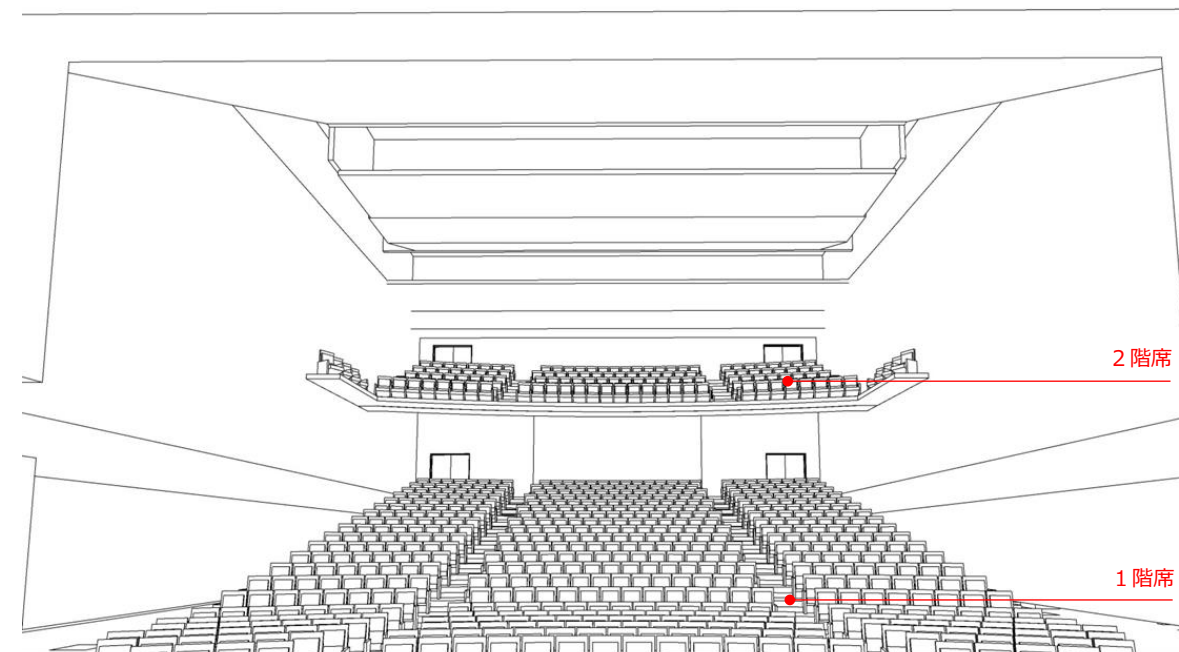
<大ホール 断面イメージ>



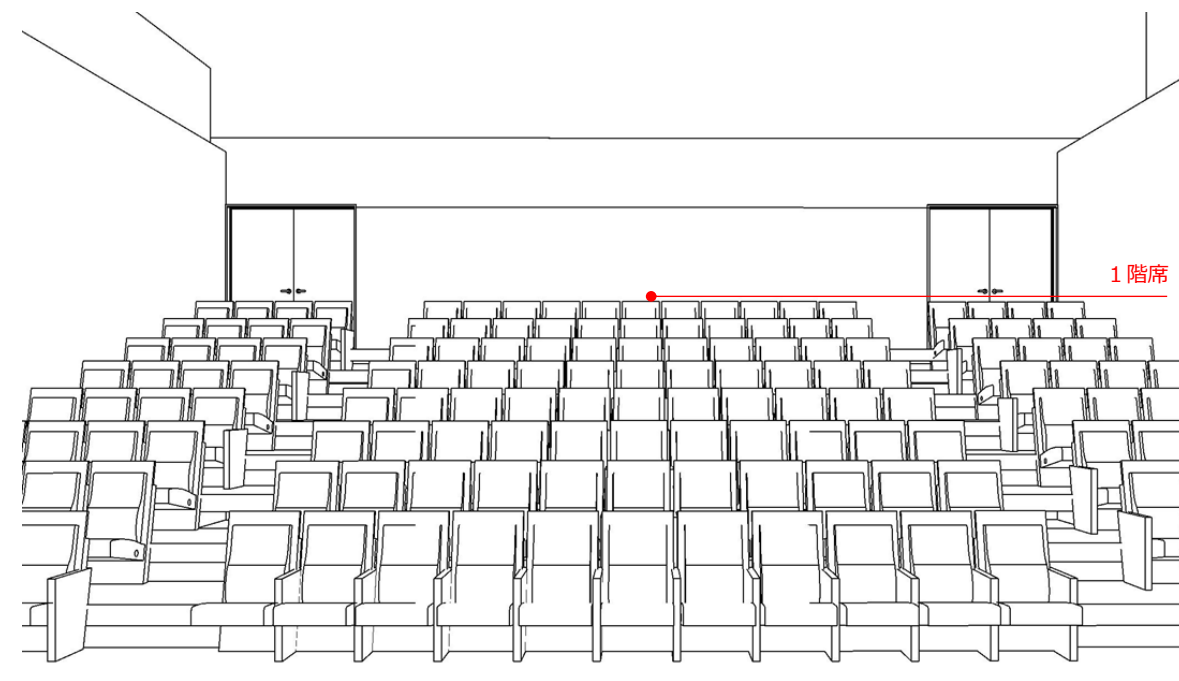
<大ホール 内観イメージ>



<中ホール 内観イメージ>



<小ホール 内観イメージ>



<コンベンションホール イメージ>



<コンベンションホール 利用イメージ>

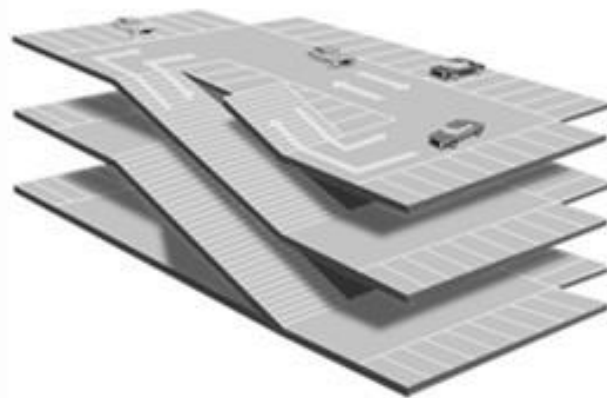


(講演会・発表会)

(パーティー)

(展示会)

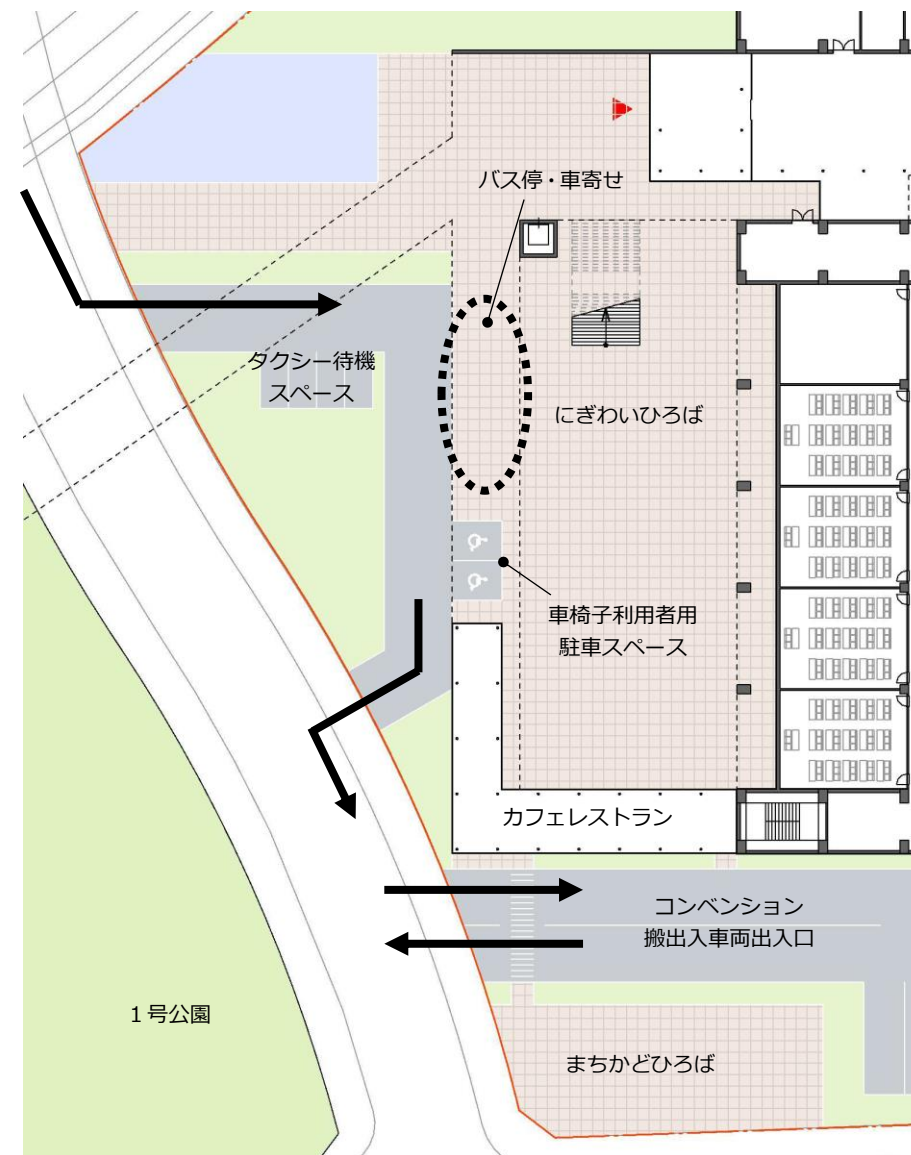
<自走式立体駐車場（フラット式）イメージ図>



5 外構計画

- ・ 西側にロータリーを配置し、一般車・バス・タクシーの乗降に対応
- ・ 西側に多目的広場（にぎわいひろば）を設け、展示場・会議室・カフェレストランとの一体利用が可能
- ・ 災害時等においては、避難者の一時待機スペース等に利用可能

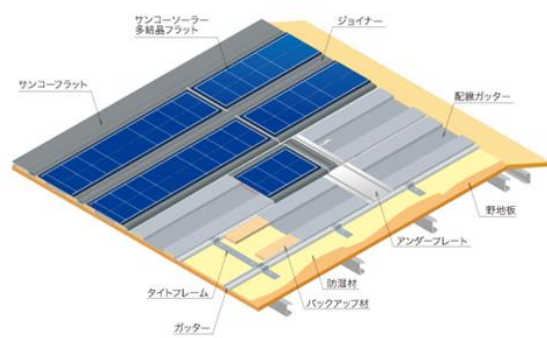
<ロータリー、にぎわいひろば 配置図>



## 6 環境配慮計画

- ・ フレキシビリティの確保、構造体の耐久性、非構造部材の合理性・耐久性・更新性、部分更新・交換容易な設備機器の採用などによる長寿命化
- ・ 建築副産物の発生抑制・再資源化、施設運用時の廃棄物適正処理などによる適正使用・適正処理
- ・ 低環境負荷材料の使用、熱帯材型枠の使用合理化、副産物・再生資源の活用、分解が可能もしくは容易な材料・工法などによるエコマテリアル
- ・ 外壁・屋根・床の断熱、窓の断熱・日射遮蔽・気密化、局所空調・局所排気、エネルギー損失の低減などによる負荷の抑制
- ・ 自然採光、自然通風などによる、太陽光発電をはじめとした自然エネルギーの利用
- ・ 騒音・振動の防止、光害抑制などによる周辺環境への配慮
- ・ CASBEE S～Aランクを目指した計画
- ・ 地形改変の抑制、緑化の推進

＜太陽光発電の例＞



＜屋上緑化の例＞



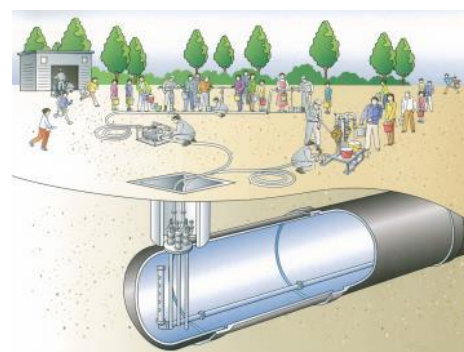
＜壁面緑化の例＞



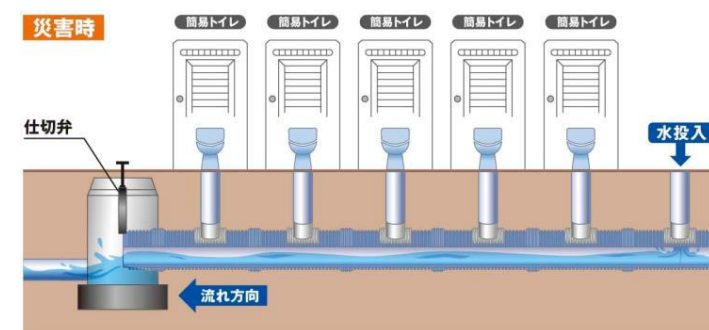
## 7 防災計画

- ・ 文化・交流施設において、災害時の電源を確保することで避難所機能を高めるとともに、1号公園との一体整備により、JR姫路駅からの安全安心な避難経路を確保することで、帰宅困難者受け入れ機能を高める
- ・ 展示場を重量車両の乗り入れが可能な平土間空間とし、災害用応援物資集積拠点機能を高める
- ・ 洪水などの自然災害への対策、停電などの技術的災害への対策（BCP：事業継続計画）
- ・ 大空間や広場を生かした防災対策、災害時に多機能に利用可能な広場の活用などによる、災害時に市民の頼りとなる施設づくり

＜耐震性飲料用貯水槽の例＞



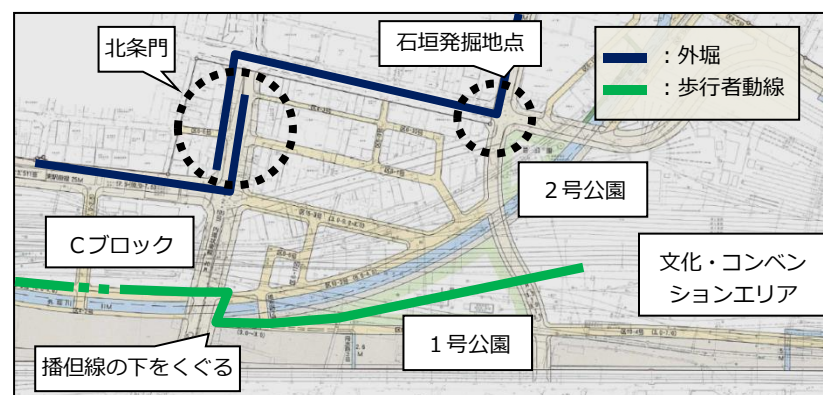
＜下水直結型仮設便所の例＞



## 8 デザインコンセプト

- ・ エントランスゾーン、コアゾーン等との一体性に配慮したデザイン
- ・ 新幹線やJR山陽本線からの景観に配慮したデザイン
- ・ 歴史・自然との共生を具現化したデザイン

＜姫路城跡との位置関係＞



＜エントランスゾーン等との一体性＞  
（キャッスルガーデン）

